

『雨のち晴れ』／作：齊藤淳子

ある晴れた日、カエルのケロ太はいつものように池の蓮の上で空を見上げていました。
「今日もいい天気だなあ。」



ケロ太が蓮の上でウトウトしていると、空が暗くなってきました。
ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・ポツ・・・
ケロ太の顔に雨が落ち始めました。
「あ、雨だ。気持ちいいなあ～。」
雨で目が覚めたケロ太。ケロ太は雨が大好きです。

ポツポツポツポツポツポツ・・・・・・・・・・・・・・・・雨が少しずつ強くなってきました。
ゴロゴロ・・・ゴロゴロ・・・遠くで雷もなっています。



ゴロゴロゴロゴロゴロゴロ ザーーーーー

雷の音がどんどん近づいてきます。雨もどんどん激しく降ってきます。
まるでバケツをひっくり返したみたいです。

「あれ？ 雷神様が近づいてきている？ 雷神様、怖いから、ぼく、あんまり会いたくないなあ。」

ケロ太がそう思った瞬間

ピカッ⚡ドン！！

空がものすごくまぶしく光ったと思ったら、空高くから稲光と一緒に雷神様がケロ太の目の前に現れました。

「ケロ太、悪いことしてねーかー？」

「あ！ 雷神様・・・。こ、こんにちは。 ぼ、ぼくはいい子にしていますよ。」

「本当か？ 悪い子はへそを取っちゃうぞ！ 悪い子のへそは俺様の大好物だからなあ！ わっはっはっはっはっ！」

いじわるを言うてくる雷神様を時々チラッと見ながら、ケロ太は小さくうずくまって震えていました。
すると雷神様の後ろに小さな竜巻が見えました。
その竜巻はどんどん どんどん ケロ太たちの方に近づいてきます。

「うわあ～～～！ 飛ばされるーーーー！！」と思った瞬間

ものすごく強い風が ぶわあーーーー！！と吹いて風神様が現れました。

「雷神！ そんなにケロ太を揶揄うんじゃないよ。 可哀そうに、こんな怯えてるじゃないか！」

「ちえっ！ 風神、おまえか……。 俺様は悪い子のへそを探していただけだぜ。」

「雷神、ケロ太は友達想いの優しい子だよ。」

「ケロ太！ 怖がらせてしまってるかったな！ でも、悪い子になったら、おまえのへそをもらいにくるからな！ わっはっはっ！」

そういうと雷神様はゴロゴロと太鼓を鳴らしながら、遠くに行ってしまいました。

「ケロ太、大丈夫かい？」

風神様が優しく話しかけてくれました。

「はい。風神様、ありがとうございます。」

ケロ太は風神様にお礼を言いました。

「なに、雷神にも言ったとおり、ケロ太が友達想いの優しい子なのはわかっているからね。今まで通り、これからも友達を大切にするんだよ」

「はい！」 ケロ太は元気に返事をしました。

「じゃあ、ぼくはそろそろ行くね」 そういうと風神様はスッと消えてしまいました。

いつの間にか雨が上がり、太陽がでてきました。

そして、空にキレイで大きな虹がかかりました。

ケロ太はその虹の美しさに感動し、友達に教えてあげるために池の中に潜っていきました。



話を聞いた池の仲間たちが虹を見にでてきたら、もう虹は消えてしまっていました。

「あ～あ、消えちゃってたね。」 「わたしもキレイな虹、見たかったな。」

虹を見ることができなかった友達は残念そうに言いました。

残念がる様子を見守っていた太陽さんが教えてくれました。

「たくさん雨が降ったら、また虹が見れるかもしれないよ！」

「そうなの？！ じゃあ、みんなで虹を探しに行ってみよう！！」

そう言って、ケロ太は池を飛び出せる友達と一緒に虹を探す旅に出かけました。

♪ぼくらはみんな 生きている～♪ そう歌いながらケロ太たちは大雨を探します。



あちこち探し回っていたら、ケロ太が大きな黒い雲を見つけました。

「きっと、あそこに行けば大雨が降ってるんじゃないかな？」

ケロ太たちは大きな黒い雲の方に急いで向かって行きました。

辺りがどんどん暗くなってきました。

ポツ ポツ ポツポツポツポツ・・・・・・・・・・・・ 雨が少しずつ強くなってきました。

ゴロゴロ・・・ ゴロゴロ・・・ 遠くで雷もなっています。

「やった！ 雨だ！」 「わあーい、わあーい！ もっと降れー！」

大雨を見つけたみんなが口々に言いました。



気持ちのいい雨がザーザー ザーザー降りました。

しばらくすると太陽さんが現れ、雨が止みました。

「あっ！！」

ケロ太が指さす方を見ると、キレイな虹が空にかかっていた。

「わあ～！！」 「すごーい！！」 「きれい！！」

キレイな虹にみんなが感動しています。

一緒に来ることができなかった友達に、みんなで虹の絵をスケッチしました。

ケロ太がポツリといました。

「いつか、みんなで一緒にキレイな虹を見たいね」

今度はみんなで一緒にきれいな虹が見れる日がくることを願って

～おしまい～